

歴史を変えた 「守山城」

守山区には古城が多く残りますが、

そのなかのひとつ、守山城は戦国時代の

天文4(1535)年、三河国を制定した

徳川家康の祖父・松平清康が

尾張への勢力拡大の手始めに攻略した城。

しかし、このとき家康の人生を、

ひいてはいまの日本を変えたとも

いわれる事件が勃発します。

今号は地域の歴史に詳しい

「ええとこ守山案内人」のみなさんを訪ね、

その所以や謎、事件の真相に迫ります。



「ええとこ守山案内人」は、平成20年に発足し、現在の会員数は15人。守山区内の小3・中1の子どもたちを対象にした出前授業や、守山生涯学習センターとともに史跡散策、史跡マイスター養成講座などを企画・運営しています。左から竹元正雄さん、浅井保司会長、二村健次郎さん、仲井眞一郎さん。ガイド希望は守山生涯学習センターへ問合せを。TEL/052-791-7161まで

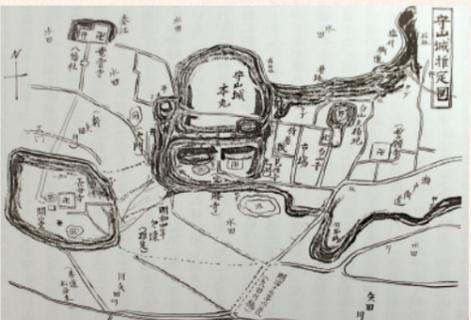
守山の地名もこの城から謎が多く興味深い守山城

「ええとこ守山案内人」は、守山の歴史・史跡・文化・自然などを学習して広くこの地域の人々に「守山のええとこ」を案内するボランティア団体です。

浅井保司会長は「大永6(1526)年、連歌師の紫屋軒宗長(さいおくけんそうちょう)が尾張の国守山の松平与一館を訪れ、『花にけふ風を関守山路哉』と詠んだ記録があり、ここが守山と呼ばれていた初見とされています。また、松平与一(松平信定)の館は守山城を指すと推定されていますが、築城時期や築城者は残念ながら不明」と話します。

その後、約10年間分の守山城についての文献はありませんが、この間に城主は松平氏から織田氏へ変わったと考えられます。

浅井さんは「戦国時代の守山城は平山城で、見晴らしのよい丘陵に建ち、本丸からは濃尾平野が一望。西に清須、北には小牧山も見えたと話します。南側を流れる矢田川や湿地を天然の濠とし、本丸の周囲は一重の堀が巡らされていました。廃城時期も不明で、現在、守山城跡には宝勝寺が建っています。本丸があったとされる海拔24メートルの丘に登ることができ、空堀を確認



守山郷土史研究会により描かれた守山城推定図。守山区史より抜粋

できるスポットも点在しています。本丸があった地点には城趾碑が立っていますが、ここに刻まれているのが、歴史学者や研究者が「歴史を変えた」と語る大事件、世に言う「守山崩れ」のエピソードです。

城に渦巻くもくろみや恐れ、人間関係が生んだ勘違い

「守山崩れといっても、守山の地が崩れたことではありません」と

浅井さんはい、「岡崎城主・松平清康は三河を統一。まさに飛ぶ鳥を落とす勢いで一万余りの大軍を率いて尾張攻略に出陣し、天文4(1535)年12月4日に清須城主・織田信秀(信長の父)を討つため守山城を攻めようとします」と続けます。

ときの城主は信秀の弟・織田信光。氣勢を上げる名將、松平清康に信光はすぐに屈し、あっさりと城を明け渡してしまいます。すると、「信秀を城内へ引き入れるのでは

ないか」と陣中はざわめきます。加えて清康が信頼する家臣・阿部大藏定吉に逆心の噂が持ち上がっていました。大藏は息子の弥七郎に「この疑いで謀反と成敗されたときは、父の潔白を申し上げ、立派に切腹しろ」と、よくよく申し聞かせたと伝わりま

ところ。翌5日の朝、陣中で馬の綱が切れ、馬が暴れる騒動が起こります。弥七郎は父・大藏が殺されたと思いき、主君・清康を斬殺。弥七郎はその場で斬られましたが、松平宗家である清康を失い、松平勢は崩れます。そして、守山を落ち、岡崎へと撤退。

「これが『守山崩れ』と呼ばれる事件で、実はもつと複雑な人間関係やもくろみがあります。疑惑や恐れる心から勘違いで主君が暗殺され、松平家の意気が弱まり、逆転して尾張・織田家の勢力が大きく三河に食いこむことになりました」。

松平家の家督を継いだのは家康の父・広忠ですが、ついに織田家の大軍乱入に耐えきれず、駿府の今川義元に救いを求めます。その引き換えとして人質に差し出されたのが嫡男・竹千代、後の徳川家康です。

竹千代はわずか6歳で人質となりましたが、駿府へ向かう道中で織田家に略奪され、今川氏が奪還するまで熱田に2年幽閉されま

す。それも含めて、足かけ12年におよぶ長い人質生活を送り、永禄3(1560)年、桶狭間の戦いで今川義元が織田家を継いだ信長に敗れると、家康は無事に岡崎城へ戻され、信長と家康は永禄5(1562)年清須城で同盟を結びます。

浅井さんは優しい口調で「家康は幼少期から青年期への多感な時期に母親と離され、人質として暮らしました。『人の一生は重き荷を負うて遠き道を行くが如し。急ぐべからず。不自由を常と思えば不足なし』という遺訓を残していますが、孤独でさみしいときを過ごしたと思いますね」といいます。

家康は天下統一を果たし、江戸を開府。265年もの太平の世を築いたにも関わらず、狡猾で抜け目がなく「タヌキおやじ」と呼ばれることがあります。

「長い人質生活によって並々ならぬ忍耐力を養ったのではないでしょう。実は父・広忠も祖父と同じように家臣に刺殺されたのですが、家康は優れた人材を揃えて天下取りに臨んでいます。もしも『守山崩れ』がなかったら、その後の家康の運命も変わり、いまの日本の姿も違ったかも知れません」と語ります。

身近な守山城跡や付近を散策しながら、戦国武將がたどった歴史に思いを馳せてみませんか。



1,2_守山城跡にある玉峯山・宝勝寺。寛永14(1637)年、守山崩れにより落命した松平清康の菩提を弔うため建立されました。清康の位牌が祀られています 3_守山城跡は東西約58メートル、南北約51メートル、海拔24メートル。竹藪の根本は空堀 4_山道を登ると城趾碑が。春日井市など北方面のパノラマが広がります

